

陽だまり

(別紙6)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0970201232		
法人名	医療法人孝栄会		
事業所名	陽だまり		
所在地	栃木県足利市島田町754-1 (電話) 0284-70-0131		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成19年11月2日

【情報提供票より】(平成19年9月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤12人(うち兼務4人), 非常勤1人, 常勤換算8.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代-1,950円/回 ・おむつ代-30円・150円/枚 ・水道光熱費-500円/日 ・日常生活品費-370円/日 ・教養娯楽費-100円/日 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年9月21日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今井病院、足利中央病院、柳田医院、増田医院、みくりや整形外科、うるしばら歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新聞折込チラシを見て入居者と職員と一緒に当日の夕食、翌日の朝食及び昼食の献立を決め、買い物に出掛け、食事をつくるといった「生活」を大切にしている。母体法人の人的バックアップもあり、職員は比較的多めに配置されている。職員は外部研修を受講すると報告書を作成し、研修内容を伝達することがルール化されており、ホーム、法人全体で知識の共有、職員育成に取り組んでいる。毎月の家族へのお便り「陽だまり」では、毎月担当者を決めて一人ひとりの入居者の日々の暮らしぶりを細かく伝えている。運営推進会議では開催当初から具体的な話し合いが行われてきており、地域の高齢者の集まり(友々サロン)になかなか参加できない地域の方を対象にホームでサロンを開催することを具体化したり、ホームでの応急手当の勉強会に地域の方を誘ったりと地域との具体的な連携が深まっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価実施後に、「その人らしさ」とは何か、「今」のその人らしさを職員一人ひとりが考えていくことを話し合った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は自己評価票を配布して全職員が取り組み、管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、自治会長、自治会副会長、友々サロン会長、入居者・入居者家族、市の担当者に参加してもらっている。友々サロンになかなか参加できない方のためにホームで友々サロンを開催することや、ホームで行う応急手当の講習会に地域の方にも参加していただくようにしたりと具体的な連携に発展している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には、毎月、個人別にお便りを作成、送付しており、日常の出来事を詳しく書き、写真も取り入れている。家族の訪問の際には、アルバムを見ていただいたり、預かり金の出納帳を確認していただいている。職員の異動があったときには、写真を載せてお便りでお知らせしている。家族からの要望で敬老会の際に日常の様子を映像を映した。重要事項説明書に苦情受付の窓口として、ホーム、市、国保連、運営適正化委員会の窓口を明記している。玄関に意見箱を置いているが意見等が入ったことはない。職員全員が家族とのつながりを深めることを目標とし、家族の訪問の際には必ず声をかけ、また職員間での情報の共有を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入しており、地域の祭りや育成会の廃品回収などに参加している。また、毎月、地域の高齢者の集まり(友々サロン)に全員で参加している。ホームの前の道路が近隣の方々の犬の散歩コースになっており、門の前にベンチを置いて会話を楽しんだり、近所の方からおすそ分けをいただく関係もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、入居者様が重ねてこられた経験 入居者様が今、持っている力 今、住んでいる地域（まち）今、陽だまりで提供できることを最大限活かす努力を惜しみません。そして、『その人らしく』『いきいきと』生活していただくことをお手伝いし、『その人らしく』をいつまでも…を目標にします。」をホームの業務方針（理念）とし、その実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務方針（理念）は職員で話し合って決めた。管理者は、毎月行うミーティングの中で、理念を自分の言葉で表すこと、そのために各人が何をすべきかを話し合い、職員が率先してしまいがちだった掃除を全員で行うことを確認したりと理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の祭りや育成会の廃品回収などに参加している。また、毎月、地域の高齢者の集まり（友々サロン）に全員で参加している。ホームの前の道路が近隣の方々の犬の散歩コースになっており、門の前にベンチを置いて会話を楽しんだり、近所の方からおすそ分けをいただく関係もある。	○	運営推進会議などでも相談しながら、小学校などとの連携も模索しているので、実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価実施後に、「その人らしさ」とは何か、「今」のその人らしさを職員一人ひとりが考えていくことを話し合った。今回の自己評価は自己評価票を配布して全職員が取り組み、管理者がまとめた。		

陽だまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、自治会長、自治会副会長、友々サロン会長、入居者・入居者家族、市の担当者に参加してもらっている。友々サロンになかなか参加できない方のためにホームで友々サロンを開催することや、ホームで行う応急手当の勉強会に地域の方にも参加していただくようにしたりと具体的な連携に発展している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村事業への協力なども考えてはいるが、今のところ運営推進会議以外ではあまり行き来がない。	○	友々サロンのホームでの開催など運営推進会議で具体的な話し合いが行われていることから、地域密着型サービスとして市とともにサービスの質の向上に取り組めるような、より積極的な関係づくりに取り組んでいくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月、個人別にお便り（「陽だまり」）を作成、送付しており、日常の出来事を詳しく書き、写真も取り入れている。家族の訪問の際には、アルバムを見ていただいたり、預かり金の出納帳を確認していただいている。職員の異動があったときには、写真を載せてお便りでお知らせしている。家族からの要望で敬老会の際に日常の様子を映像を映した。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付の窓口として、ホーム、市、国保連、運営適正化委員会の窓口を明記している。玄関に意見箱を置いているが意見等が入ったことはない。職員全員が家族とのつながりを深めることを目標化し、家族の訪問の際には必ず声をかけ、また職員間での情報の共有を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期的な異動はなく、管理者が職員の勤務希望や長期的な予定、不満等を日ごろから聞きながらなるべく異動や離職がないように配慮している。開設してからの職員の変更は、常勤2人、非常勤2人である。職員が変わる際には、入居者に話をして影響の出ないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は作成していないが、認知症介護実践研修に毎年1名ずつ参加させている。外部研修の案内があった時には希望者を募るようにしているが、研修の内容によっては管理者が参加を促すこともある。法人内の研修、ホームでの勉強会も行っている。職員は研修に参加したときには、報告書を作成し、また研修内容の伝達をすることがルール化されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び県のグループホーム協会に加入している。また、管理者が研修で知り合った近隣のグループホームとのネットワークを作っており、他のホームでの取り組みを参考にしたりしている。お互いのホームの職員の交流なども行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に事前にホームに来ていただくよう働きかけているが訪問できる方が少なく、ホームから訪問する際に雰囲気が伝わるような写真を準備することなどを考えている。新しく入居された場合は、馴染めるまで職員と一緒に過ごす時間を長くするなどの配慮をしている。	○	今後予定されているホームでの友々サロン実施の場を活かしたりしながら、少しずつホームに馴染めるような場面を充実していくことに期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯物干し・たたみ、食事づくり、後片付けなど入居者のできることを考慮しながら職員と一緒にいる。食事づくりの場面では、入居者が味付けをし、職員が味見をするという光景が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、「その人らしさ」とは何か、「今」のその人らしさを職員一人ひとりが考えていくことを大切に考えており、普段の生活の中で思いや希望の把握に努めている。困難な場合は職員で話し合いながら検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、必要によっては医師等の助言等も踏まえて、カンファレンスで職員の気づきや意見も踏まえながら最終的に管理者（兼計画作成担当者）がまとめている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、カンファレンスで職員の意見も聞きながら計画の見直しをし、状態の変化などがあつた時には必要に応じて医師等のアドバイスも踏まえて計画の見直しをしている。個人記録には実施したケアプランの番号を記録するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、週1回看護師が来訪している。（その他の時間帯はオンコール体制）職員体制を勘案しながら馴染みの美容院への送迎や馴染みの場所に行くことを支援している。		

陽だまり


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は多いが、かかりつけ医がある場合は家族との連携のもと適切な医療が受けられるよう支援している。通院は基本的には家族が対応するが、必要によっては職員が対応することもある。法人の医師の週1回の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員間での話し合いや法人内の医療機関との検討はしているが、今のところ方針・指針等は作成していない。	○	職員の話し合いや医療機関等との調整を図りながらホームとしての最大の支援方法を踏まえて方針・指針等を作成し、本人・家族、関係者と繰り返し話し合っていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	申し送り等はリビングスペースで行っているが、個人名等は出さないように配慮している。排泄の失敗などがあった時には本人が傷つかないように言葉かけをし、見えない場所で対応するなどの配慮をしている。記録は事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たり、調理をしたり、部屋で横になっている方がいたりそれぞれのペースで過ごしている様子がうかがえた。一日が穏やかに流れていた。		

陽だまり

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞の折り込みチラシを見ながら、入居者と一緒にその日の夕食、次の日の朝食、昼食の献立を決めて、買い物に出掛け、入居者と一緒に食事づくりや後片付けをしていた。職員も一緒に同じ物を食べながら楽しそうな食事の時間を過ごしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が見守りながら、おおむね16:00～19:30の時間帯で30分ぐらいを目安に入浴を支援している。希望で夕食後（18:00～18:30以降）に入浴される方もいる。ほぼ毎日入浴される方もいる。少なくとも週に2～3回は入浴できるよう支援しており、入浴を好まない方には誘い方を工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや掃除、洗濯物干しなど、入居者の出来ることやその日の状態に応じて、できるだけ皆で行っている。よもぎを摘んで草もちをつくったりもする。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と一緒に買い物に毎日出掛けるほか、天候の良い日にはホーム周辺の散歩をしたり、200メートルほどの距離を時間をかけて友々サロンに出掛けたり、外食に出掛けたりと外出の機会を設けている。門の前にベンチを置き、犬の散歩をする近隣の方と会話を楽しんだりもしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵を掛けていない。道路を挟んでホームの反対側に田んぼが広がっており、大きな用水路があることもあって門扉には鍵を掛けている。外出の際は職員が付き添って対応している。	○	できれば門扉にも鍵をしないようにしたいという気持ちがかがえた。立地上、安全性への配慮は必要と考えられるが、理想を追求し続けることに期待したい。

陽だまり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練を実施し、消防署に報告書を提出している。これまでに2回実施しているが、初回は夜間想定で実施した。自治会の緊急連絡網にホームも入っている。防火管理者必置の建物ではないが、防火管理者講習修了者が3名いる。救急の際などは法人から応援をもらえる体制になっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新聞の折り込みチラシを見ながら、当日の夕食、翌日の朝食及び昼食の献立を考えている。年に1度は法人の管理栄養士の助言をもらっている。水分量は特に記録していないが、必要な水分を取れるよう配慮している。今のところ栄養や食事量、水分量に特別な配慮が必要な方はいない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の調度や設備は家庭的なものを用いており、季節の草花（ススキ、コスモスなど）を飾っている。リビングは吹き抜けになっており、高窓から差し込む光がまぶしいときはテーブル・イスを移動するなどして調節している。換気システムもあるが、訪問時には窓を開け、心地よい風が室内に入り、空気のとどみや気になるにおいはなかった。気になる音などもなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持ち込みは自由になっており、入居者それぞれの居室づくりがなされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。